

「平和な世界を求めて」

読谷中学校 三年三組 上村 海人

「平和な世界」と聞くと、みがさんはどのようが世界を思い浮かべますか。「戦争のはい世界」 「みんな加笑顔でいる世界」 などさまさまだと思います。

ほくは、これまで平和学習などの戦争に関する授業を通して「めんごくさい」 「かんてい」 こんがに戦争について勉強するのだろうとばかり考えていました。

二十七年にチビチリがマ荒らし事件がありました。このとき、犯行に及んだ少年たちのかマに侵入した動機は「肝試しでやった」ということにとっても衝撃を受けました。また、この事件を起こした彼らは

「歴史を知らずに過ちを犯してしまつた。」

と述べていました。ほくはこれを聞いて、知らなかつたで済ませられるわけもなく、ひどいなと思いました。

しかし、ほくはこの事件をきっかけに平和

を学ぶとはどのようなことなのかを考へさせ
られました。これまでは、ひめゆり平和祈念
資料館や平和記念公園を訪れて感想を書くだ
けでした。また、「平和・戦争を学ぶ」とい
うと、ほとんどが「戦争の悲惨さを学ぶ」と
いう意味になつていると思ひます。戦争は人
と人が殺し合う、戦争はおそろしい、酷いな
どの感想で終わつてしまひます。数日ほど前
に戦争に関する映画を見て、「人間は過去の
過ちを忘れると同じ過ちを繰り返す」という
言葉加とても印象に残りました。今まで感想
を書くだけだつたけど改めて平和を学ぶとい
うことは、過去の出来事からどのようなにして
戦争が起きたのか、その理由などを考へて、
それを今後に活かすことだと思ひました。戦
後七十六年、「戦争はやつてはいいけない」と
いうことはだれも知つていることだと思ひ
ます。そんな中今だに「戦争はやるべきだ」
と叫ぶ人はたくさんいます。戦争を望む人が
いる限り「戦争」というものはなくならませ

人。『平和な世界を築きたい』という思いだ
けでは平和な世界はできません。今でも戦争
をしている国があります。だからこそ、平和
学習をする必要があるのです。戦争を知らな
い、ぼく達は、自分の体験談を話すことはでき
ません。でも、戦争を体験した人は高齢にな
り、戦争を伝えていく人が減ってきています。
次はぼく達が戦争を伝えていく番です。

今は日本で戦争が行われていません。しか
し、今の世の中では殺人や自殺の他にも『死
ね』の言葉使いなど命に対する意識が低くな
っていると思います。世界でも今だにテロや
戦争で命を落とす人がたくさんいます。戦争
があつたことや平和を学ぶことかできる環境
を大切にしながら、命の重さを知ること、戦
争について学ぶことのひとつです。

ぼく達は一人の人間として存在していま
す。ぼく達一人一人に生きる義務があります。
お互いを尊重し合い、思いやりをもつことを忘
れてはいけません。日頃から争いや揉めごと

を減らす努力をする必要があると思います。
みんなが協力しながら、平和な世界を築き、
永遠に守っていていくこと加ぼく達の務めではな
いでしよいか。

ぼく達が今できることを考え、これかたも
一回一回の平和学習を大切にし、少しでも
くの人加命の大切さ、戦争の過去を知り、み
んなが平和だと思える世界をつくっていきたく
いです。